

5 指導事例

国語「読んで考えたことを伝えよう『ごんぎつね』」

小学校・第4学年

【本単元の概要】

本単元は、作品「ごんぎつね」を、他者との交流を通して読み深めることをねらいとしている。他者との交流を通して、一人で読んだときに気付かなかった叙述や解釈に触れ、自分の考えを見直す。最終的には、課題について疑問を解決したり、新たな気付きを生み出したりして、物語の世界を読み深める。

1 単元の見目標

場面の移り変わりに注意して、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。

2 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・叙述に着目して物語を読み、感じたことや考えたことを進んで話し合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読んでいる。 ・文章を読んで考えたことを発表し合い、互いの考えの共通点と相違点を考え話し合うとともに、一人一人の感じ方の違いに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。

3 単元の指導計画（全7時間）

時	学習活動（協働的な学習活動）	言語活動のポイント
第1次	第1時 ○「ごんぎつね」の話を読み、心に残ったことを紹介カードにする学習であることを知る。 ○読んだ感想を発表し合い、学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んで、自分の考えを書き、書いた文章を相手に話して伝えること、相手の考えを聞くこと、互いに話し合うことによって、それまで気付かなかった新たな考えに気付き、その考えを生かして文章に書くことなどを行う。
	第2時	
第2次	第3時 ○ごんの人物描写を読み取り、ごんはどんなぎつねかを考える。 ○葬列の場面でのごんの気持ちの変化を読み取る。	<p style="text-align: center;">協働的な学習活動のポイント</p> <p>他者と話し合う必然性のある課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちを二通り設定し、そのうちの一つを選択するという課題とする。選んだ理由や根拠を他者と交流する際に話し合う観点を絞ることができる。
	第4時 ○兵十に共感を寄せ、つぐないをするごんの行動や、気持ちの変化を読み取る。	<p>互いの考えを知るための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの「アンケート機能」を使い自分の考えを選択し、学級内の誰がどの考えを選択したのかを児童自身が確認できるようにする。あらかじめ同じ意見や違う意見の児童を確認し、話したい児童を選んで話し合うことができる。
	第5時 ○加助と兵十の会話を聞くごんの気持ちを、ごんの行動描写から想像して読み取る。 ○ごんの気持ちを読み取り、ごんは兵十に正体を明かしたかったのかを考える。	
	第6時 本時 ○ごんの気持ちを読み取り、ごんの気持ちは兵十に伝わったのかを考える。	
第3次	第7時 ○詳しく読んだ後にまとめの感想（最終感想）を書く。 ○一番心に残ったことを基に「ごんぎつね」の紹介カードを仕上げる。	<p>自己評価を生かした指導と評価の一体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の達成度を自己評価するだけではなく、児童が次の学習の目標を立てることができるように、評価項目の内容について児童に説明する。

4 本時の学習（第6時）

(1) 特に重点を置いた言語活動のポイント

・根拠を明確にして課題について自分の考えを他者に伝えるとともに、相手の考えを聞いて更に自分の考えを広げたり深めたりし、再び自分の考えを見直すよう指導する。

(2) 特に重点を置いた協働的な学習活動のポイント

□ 他者と話し合う必然性のある課題の設定
 ごんの気持ちを「A 本当のことは知らせなくてよい」、「B 本当のことを知らせたい」という二つの考えから選択させることで、選んだ理由や根拠を明確にして話し合わせる。

(3) ねらい

ごんの気持ちを想像し、なぜそう考えたのかについて叙述を基に理由をはっきりさせて話し合い、考えを深める。

(4) 本時の展開

学習過程	学習活動	指導のポイント
課題をつかむ	1 本時の課題を確認する。 ごんは兵十に栗を届けていたのが自分であることを伝えたかどうかを考えよう	
	2 課題に対する自分の考えを選択肢から選び、理由を書く。 ○二つの選択肢から選ぶ。 A：本当のことは知らせなくてよい。 B：本当のことを知らせたい。 ○そう思った理由を書く。	◆理由を書き出せない児童に対しては、正体を明かしたら、その後ごんはどうなると思うか、「引き合わない」という言葉は、どんな言葉と言い換えられるかなどについて考えさせる。
自分の考えをもつ	3 そう考えた理由について話し合う。 ○Aを選んだか、Bを選んだか、一覧表を全員で確認し、同じ考えの人と違う考えの人を見つける。 ①選択したものが同じで、そう考えた理由も同じ人 ②選択したものが同じで、そう考えた理由は違う人 ③選択したものが違う人	◆個人の読み取りで理由がはっきりしなかった児童は、他者からヒントを得られるようにする。
	4 話し合いをした上で、再度課題についてAかBを選択し、理由を書く。 5 全体で考えを発表し合う。	◆他者と話し合いをした上でもう一度自分の考えを見直させる。
協働的な学習活動 グループ ↓ 全体		
自分の考えを見直す	6 話し合いについて自己評価を行い、振り返る。 7 話し合いをして、分かったことを発表する。	◆理由について深まった児童や選択そのものが変わった児童に、誰の考えを受けて自分の考えが変わったのかを発表させる。
自己の変容などを振り返る		

検証の成果と課題

◆成果◆

- ・協働的な学習活動は、自分の考えを言葉で表現できない児童に適した活動である。一人で読むより理解が深まった。
- ・他の児童の考えを参考にし、自分の考えを見直せたことが学習後の感想から読み取れる。
- ・協働的な学習活動を行うことによって、多くの児童と話を共有したり話を聞いたりすることができた。

【一単位時間の児童の学習感想】

他の人の意見を聞いて「いわしのおおび」であるという考えに驚きました。そこまで読んでいたのだなと思いました。〇〇さんの意見に納得したので、私もそんな考えが書けたらいいなと思いました。

【単元後の児童の学習感想】

相手とどこが同じでどこが違うのか話し合えてよかったです。達人（自己評価5）までいけてうれしいです。今まで気付かなかったことに気付くことができました。

◆課題◆

- ・自己評価では児童が客観的に自己を振り返ることができず、教師の評価に直接反映することは難しい。参考程度とした上で、児童に自己評価を理解させ、慣れさせる必要がある。

【本単元での検証結果】児童の自己評価が段階に応じて上がった児童の割合・・・87%
 教師の評価が単元前より上がった児童の割合・・・48%